

「第 3 章 コンピテンシー基盤型教育・学修評価・学修方略」に関する修正意見があれば記載してください。修正に関する理由や根拠（文献、報告書等）も併せて示してください。

○コアカリと各大学の DP とのつながり（DP 設定がコアカリの内容の影響を受けるか）について不明瞭である。各大学の DP は、各大学の教育理念にもとづいて設定されている。本モデル・コア・カリキュラムが設定されたあとも、DP は大学の独自の教育理念にもとづいたものであり、DP と本モデル・コア・カリキュラムの関係性を検討し、CP などを検討する中でコアカリの内容を反映させるといように、本モデル・コア・カリキュラムと DP および CP との関係性を明確に示していただきたい。

改訂案（本文）に対するその他の修正意見があれば記載してください。修正に関する理由や根拠（文献、報告書等）も併せて示してください。

○そもそも引用している文献で記載していることと、提示しているモデル・コア・カリキュラムの考え方が不一致である。

○指導体制と委託の程度において、臨地実習時点には「看護師などがすぐに対応できる状況下でできる」ことが求められている。看護学教育に関わる人々への依頼について、「臨地実習では実施できていない実情」を踏まえて、実施可能な範囲の拡大や委託など具体的な協力を盛り込む必要がある。看護教育者の養成は、大学院における教育が望ましいと考えるが、資格認定の制度を（本学会を含め）関連学協会で検討する必要があると考える。

○学習成果の到達度が新人看護師とされているが、文中にもあるように病院の機能によって求められる新人看護師の能力は異なっている。平成 22 年度に新人看護師研修が努力義務化されたときにも、病院の機能に応じた研修をどのように組み立てていくか戸惑った病院もあった。綿密な調査によって抽出された内容だと思うが、求められる資質・能力が新人看護師の到達度として一般的なものであるのか今後、更なる検証が必要だと考える。

○参加型実習の必要性、依頼に関するして、国民への周知について触れられており、国民にわかりやすく伝わるような簡潔なバージョンがあると良いと思う。

○CBT、OSCE のアウトカム評価、特に実習に入る前のアセスメントについては、看護学教育全体で使用できるものの早期作成を希望する。